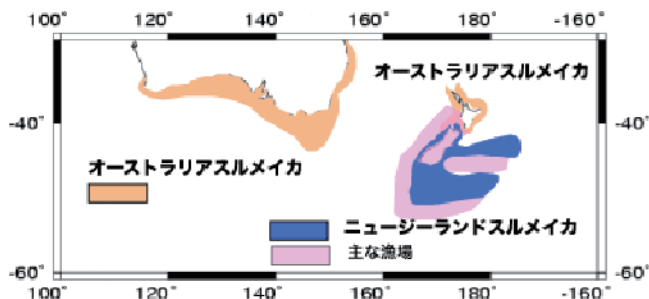


ニュージーランドスルメイカ・オーストラリアスルメイカ 南西太平洋（ニュージーランド海域）

Wellington Flying Squid, *Nototodarus sloanii* & Gould's Flying Squid, *N. gouldi*



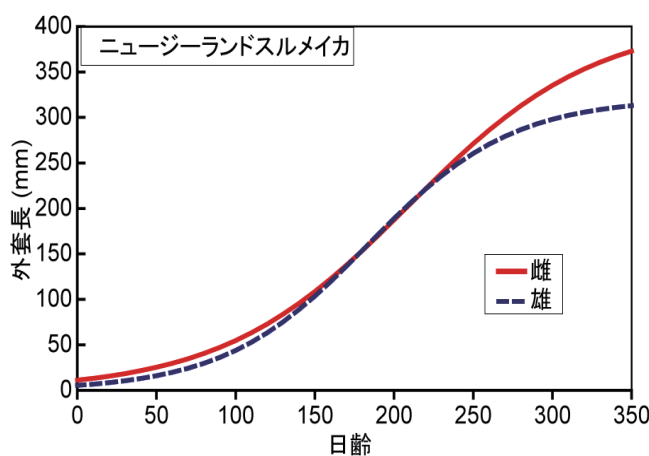
ニュージーランドスルメイカ



本資源の分布図 (Mattlin et al. 1985 を改変)



オーストラリアスルメイカ



管理・関係機関

ニュージーランド政府

最近一年間の動き

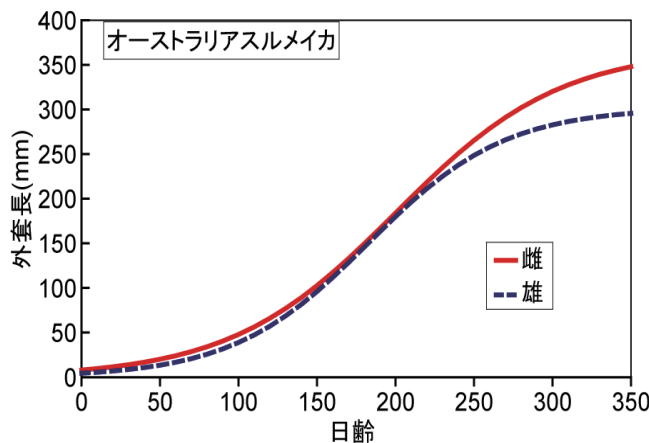
当海域で 2007 年にいか釣り操業を行っていた我が国いか釣り漁船は 2 隻と昨年より減少し、漁獲量は 1,451 トンであった。一方、各国による本資源の総漁獲量は 12 万トンを超え中位水準にあった今後、これら外国船の動向の把握も必要である。

生物学的特性

- 寿命：1 歳
- 成熟開始年齢：約 6~8 ヶ月
- 産卵期・産卵場：周年（主に冬）
ニュージーランド南島南岸および東岸の陸棚上（ニュージーランドスルメイカ）
南北両島間の西岸陸棚上（オーストラリアスルメイカ）
- 索餌場：陸棚上
- 食性：中深層性魚類、おきあみ類・いわし類
- 捕食者：海鳥類、あざらし、さめ類等

利用・用途

するめ、いかめし、刺身（塩辛を除く、日本のスルメイカと同様な加工原料）



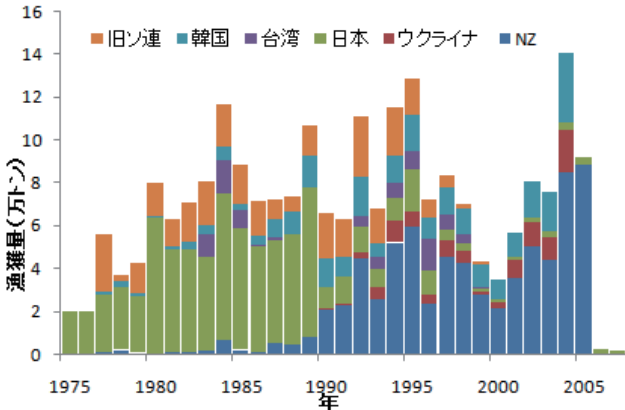
ニュージーランドスルメイカ（上）及びオーストラリアスルメイカ（下）の成長 (Uozumi et al. 1995 より)

漁業の特徴

ニュージーランド海域の総称“ニュージースルメ”はニュージーランドスルメイカとオーストラリアスルメイカの 2 種を含む。かつては二国間協定に基づく操業で主要な漁業国は日本だったが、1990 年にニュージーランド政府は日本のイカ釣り船への割当量を廃止した。そのため、日本の漁獲量は激減し、ニュージーランドの水揚量が急増した。

漁業資源の動向

総漁獲量は変動が大きく、1980 年代中頃～1990 年代中頃に 10 万トンを超えた後、減少したが、2004 年には 12 万トン台となり、ここ数年は中位で安定傾向にある。

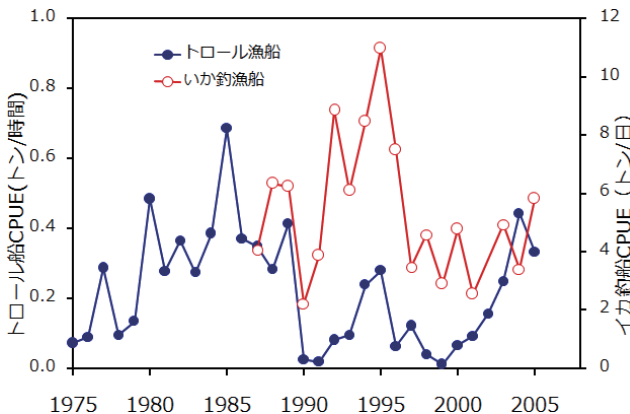


本資源の国別漁獲量

(データは FAO 2007、ただし、2006 および 2007 年は全国大型いかつり漁業協会の操業状況週報よるいか釣り漁による漁獲量)

資源状態

一般に、単年性のイカ資源は、毎年新たに加入が決まるため、大きな年変動をする。本資源もトロール船といか釣り船それぞれの CPUE (曳網時間当たりの漁獲量と船一日当たりの漁獲量) はかなりの年変動を示す (下図)。規模は異なるが、両漁法の CPUE の変動はほぼ一致し、特に、1990 年 (1989/1990 年) 漁期以降で両者とも増加し、1995 年 (1994/1995 年) 漁期にピークが見られ、それ以降は減少している。いか釣り船の CPUE は 1990 年代中頃から最近までの 10 年間は低位で安定していたが、トロールでは 2000 年 (1999/2000 年) 漁期以降、増加傾向が見られ、現在では中位水準で安定している。

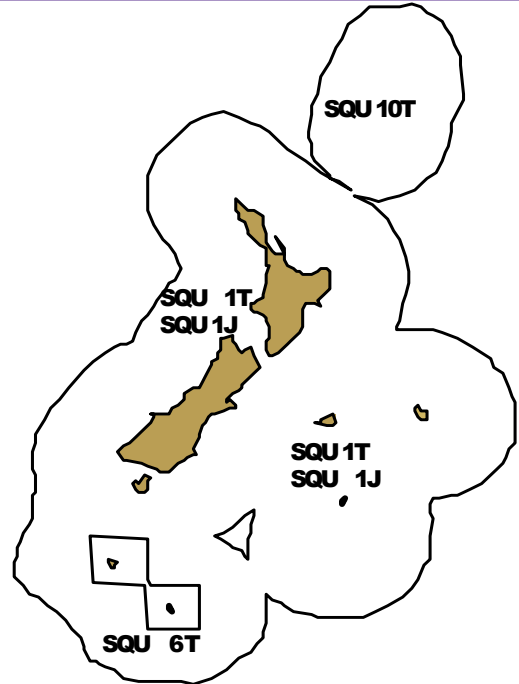


ニュージーランド海域における日本船の CPUE

管理方策

ニュージーランドは 1978 年に 200 海里水域制度を施行し、本資源は同国政府の管轄下に入った。当初、同政府はトロール漁業を漁獲量規制し、いか釣り漁業は努力量 (隻数) を規制した。しかし、同じ資源に対する管理法策の統一を行い、現在ではイカ釣り漁業にも漁獲量規制を実施している。現在、本資源は北側の SQU 10T、東西の SQU 1J と SQU 1T 及び南のオークランド諸島の SQU 6T の 4 ストック (右上図) に個別の TACC (商業漁獲可能量) が決められている。

イカ類のような単年性の生物資源の維持で、MSY の推定は不可能で必要もない、との考えによる。現状の漁獲規模では将来の加入量や資源量に影響を与えないと考えられる。そのため、本資源の TACC はここ 10 年間に大きな変化はなく 12.7 万トンである。TACC に基づき配分される個別譲渡可能漁獲割当量 (ITQ) は、SFMC (イカ漁業管理会社) が管理する。南部海域のオークランド諸島の SQU 6T ストックは、雑魚の混獲が少ないイカ狙いのトロール操業が中心となる。トロール操業の本海域での鰭脚類の混獲死亡の制限のため、ニュージーランドの漁業省と環境省は毎年その混獲数の限度を設定している (2006-07 年は 93 頭)。



本資源の管理海域

資源評価まとめ

- ニュージーランド政府は現在のところ直接的資源評価は実施していない
- 資源水準は中位で安定傾向

資源管理方策まとめ

- 4 つのストックについて TACC を決定
- ITQ は SFMC が管理
- 鰭脚類のトロールによる混獲を規制

ニュージーランドスルメイカ・オーストラリアスルメイカ (南西太平洋) の資源の現況 (要約表)

資源水準	中位
資源動向	安定
世界の漁獲量 (2001~2005 年)	5.6 万~14 万トン 平均: 9.5 万トン
我が国の漁獲量 (2001~2005 年)	1,850~3,622 トン 平均: 2,727 トン